

津つの冷つめたい、おいしい水みづがのみたかつた、——埋うめめ立てられた海岸かいがんぞいにつくられた横よこ浜はまの水みづは、かし子ののどをうるおすことができなかつたのです。

しかし、養よう父ふ、大おお川かわ甚じん兵べい衛えいの貿ぼう易えきの仕し事じが順じゆん調ちやうなうちは、豊ゆたかかな暮くらしがで
きました。やがて、養よう父ふの主しゆ人にんである山やま城しろ屋やが、ある事じ件けんにまきこまれて破は産さん
したため、その影えい響きやうをうけた養よう父ふの仕し事じもだんだんうまうまいかなくなりまし
た。一家いけは、横よこ浜はまをひきはらつて、東とう京きやうにうつりました。かし子こも『キキダダーさん
の学がく校こう』をやめました。

はじめのうち、少し残のこつていた財さい産さんも、やがて少すくなくなつていきます。せま
い家いの中ちゆうでひつそりと暮くらしていると、生せい活かつが苦くるしくなるにつれて、ふだんは
何なにとも思おもわなかつたおたがいの欠け点てんも、はつきりわかるようになり、おたがい
に氣きにかかつてきます。だんだん、神しん経けいもいらいらしてきます。

「ままつたつく、ししぶぶとい、強こわ情じやうつぱりだよ。」